

### 第31回 湿布薬

湿布薬はドラッグストアなどで多種多様のものが売られており、誰でも一度は使ったことがあるのではないのでしょうか。湿布薬は厚みからパップ剤やテープ剤に分類されます。

湿布薬といってまず一番に想像するのがパップ剤と呼ばれる剤形の湿布薬ではないのでしょうか。少し厚みのある形状と、主成分が液状の物質で作るため、しっとりした貼り心地が特徴で、冷湿布や温湿布もパップ剤の形を取っています。冷湿布は水分のひんやりした感触の他に、メントール（ハッカの成分）やカンフルなどの冷感刺激を起こす物質を含ませることによってより冷たい感触を得るように作られています。温湿布はトウガラシエキスなどの皮膚を刺激し温める成分が含まれています。しかし、皮膚を刺激することからもわかるように、温湿布はかぶれやすいところが難点でもあります。

パップ剤が昔ながらの湿布薬なら、その対極に位置すると言っても過言ではないのがテープ剤と呼ばれる剤型です。テープ剤は、パップ剤に比べて非常に薄いため肌への密着度が高く、はがれにくいのが特徴です。テープ剤は薄いので、肌色をした物は、露出の多い所などに貼っても目立ちにくいです。

当院の採用薬について、各製剤の特徴となまえの由来についてみていきましょう。

アドフィード：ADD（adherent：接着） FEED（供給する） より  
上で言っていた昔ながらの湿布薬の代表です。痛み止めの成分（フルルビプロフェン）の他にメントールも配合されており、冷感タイプの湿布薬です。余談ですが、痛み止め成分であるフルルビプロフェンは、市販の薬にも配合できるようになったので、ドラッグストアなどで購入することができるようになりました。（商品名はアドフィードではありません）

セルタッチ：セル（CELL：痛みの細胞に） タッチ（TOUCH：肌にやさしい）  
セルタッチに特徴的なのは無臭性をうたっていることです。独特な湿布の匂いがしないので、周りを気にせず貼れるかもしれません、その代わりなんとなく効いてる感じも損なわれてしまうかもしれませんね。

MS 温シップ：Merhyl Salicylate（サリチル酸メチル：炎症を抑える成分） 含有の  
温感タイプの湿布薬  
温感タイプの湿布薬です。

モーラステープ：特になし  
テープ剤の湿布薬です。モーラスは光線過敏症が報告されているため、貼った部分を紫外線に当てると炎症を起こしたりすることがあります。また、はがした後も成分は数日残っているので、しばらくは直射日光を避けることが必要です。

ヤクバン：薬（ヤク）+ 包帯、救急絆（bandage：バンテージ）  
ヤクバンもモーラスと同じテープ剤ですが、モーラスと違い光線過敏症は起こりづらくなっています。

今回は合剤です。

薬剤師 樋口 昇大